

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から④

縄文時代の道具には、狩に使用する凹石（くぼみい
 獅・漁撈（ぎよろう）・採し）などがある。

集といった生活に直接関わったと考えられる道具も存
 するものとして、矢の先端に付ける石鏃（せきぞく）や、
 木を伐採する石斧（せき）ケ谷遺跡から出土した「土
 心」、木の実を加工する際「偶」と「石棒」で、どちら

も縄文時代の呪具を代表す
 るものだ。

まず土偶は人の形をした
 土製の焼き物で、縄文人の
 精神世界や信仰のあり方を
 表現した芸術品として、世
 界的にも高い評価を得てい
 る。乳房や下腹部、腰回り
 をかくよかに表現されたも
 のが多いことから、女性の
 姿を表したものとされる。
 新しい生命を産み出す女性
 の神秘性に託して、自然の

は、東・中予地域を中心に
 約20遺跡で出土している
 が、基本的に縄文時代晩期
 （約2800年前）のもの
 で、その多くは結晶片岩を
 素材としている。本資料に
 限っては、その下端部付近
 に溝が巡っている珍しい
 タイプのものであり、ひも
 をかけて下に垂らして使
 用した可能性も考えられ
 る。

繁栄祈る縄文人の呪具

恵みや子孫繁栄などを願っ
 たものと考えられている。

また本資料のように、手
 足や頭部のみの破片として
 出土する場合が多く、まつ
 りの時に意図的に破壊し
 て、その病氣やけがを治す
 ための身代わりとしたとす
 る説もある。

も縄文時代晩期のものであ
 り、縄文人たちは厳しい自
 然環境の中を生き抜くため
 にさまざま祈りをささ
 げ、まつりを行っていたの
 であろう。

（専門学芸員・兵頭勲）

〈月2回掲載します〉

× ×

船ヶ谷遺跡（松山市）で出土した石棒（右）
 と土偶の右足部分—縄文時代晩期、県歴
 史文化博物館保管



土偶と石棒

次に石棒は男性器を模し
 たものであり、新しい命の
 誕生と成育、豊穰（ほうじ
 よう）を祈る際に使ったと
 されている。現在、県内で

県歴史文化博物館（西予
 市）では、本資料をはじめ、
 まつりや祈りに使用した県
 内出土の道具類のテーマ展
 を9月3日まで開催中。